新潟大学　人を対象とする研究等倫理審査委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	コントラスト感度検査の緑内障患者への有用性を検討する研究
②　対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
当院緑内障外来受診時、もしくは入院時にコントラスト感度検査、National Eye Institute Visual Function Questionnaire(NEI-VFQ-25)によるアンケート調査を 2019 年 7 月 25 日から 2027 年 3 月 31 日までの間に行った 100 例	
③　概要	
外来受診時、もしくは入院中に行われたコントラスト感度検査を含む眼科検査の診療録上のデータを用いて経過を検討する研究です。	
④　申請番号	2020-0465
⑤　研究の目的・意義	緑内障の進行の速度は患者さまによって様々であり、そのなかでも中心視野障害という視界の中心の視野障害が出現すると、視力低下や視界の中心が見えづらいなどの QOL(Quality of life)、QOV（Quality of vision）を著しく低下する自覚症状が出てきます。 しかし、中心視野障害の出現を事前に予測することは困難です。 今回の研究の軸となるコントラスト感度検査では、中心視野障害の認められないもののコントラスト感度の低下している症例と、低下を認めない症例が認められています。また、既報では、緑内障の進行が急速な症例では、コントラスト感度の低下がみられたとの報告があります。 ここから、コントラスト感度の低下が今後の視野障害の進行の予測因子として有用かどうか、どのような環境下でコントラストの低下を自覚するのか、QOV に影響を与えるかどうかを検討します。 コントラスト感度低下が今後の視野障害の進行を示唆する因子である、もしくは QOV を妨げる要因になるとの結果が得られた場合には、患者さまの QOV を評価する際の重要な検査の 1 つとなると考えています。
⑥　研究期間	倫理審査委員会承認日から 2027 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	使用するデータは個人が特定されないように研究に使用します。 研究の成果は学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前等の個人が特定されるような情報の公開は行いません。
⑧利用または提供する情報の項目	診療録上に記録された、年齢　性別　眼科手術歴　既往歴　球面度数　水晶体混濁（白内障の程度）　中心角膜厚　視野検査結

	果　コントラスト感度検査　National Eye Institute Visual Function Questionnaire(NEI-VFQ-25)の結果
⑨利用する者の範囲	新潟大学　眼科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	大学院医歯学総合研究科眼科学分野　教授　福地　健郎
⑪お問い合わせ先	所属：大学院医歯学総合研究科眼科学分野　大学院生 氏名：中野里絵子 Tel：025-227-2296　Fax 025-227-0785 E-mail：nakanor@med.niigata-u.ac.jp